

違いを生み出したものは何か、その主な理由として、

- (1) B組には時間の前に、一定のテーマについてのレポートが宿題として課せられた。従って生徒は当日学習することについて相当の予備知識をもっており、又、レポートの簡単な報告に従ってまとめるという指導もとり入れた為、生徒の問題意識が学習内容とかなり密接に結びついた。
- (2) A組はプリント資料と教科書を中心とした。これに対しB組はこの他に新聞、雑誌の具体的な記事をとり入れたので、より現実的に理解したようである。
- (3) B組では第1限で生徒のレポートの発表を整理しながら、単元学習の主な順序、方向が一応全員のものとして確認されていた。

最後のテスト結果は別としても、課題解決学習でとりあげた事柄、即ち(1)、簡単なレポートを書くという形での予習、(2)、具体的な資料の採用、(3)、単元全体の方向づけというものは、所謂、系統学習や、講義中心の学習にも応用し得て、有効な指導法と考えられる。

以上1単元についての研究例から断定することは危険であるが、知識、理解を低下させることなしに、思考様式及び態度は1つの単元の中でも、事実即した内容的な面から変えることが可能であるといえる。

学習の時間配当については課題解決学習を徹底させるには、家庭学習を含めて、かなり時間がかかるか、授業における指導計画に支障は少ないし、所謂系統学習と併用していけるし、重点的に単元を設定することも可能である。

しかし、問題点としては、課題解決学習を成功させるには、言わば指導要領の批判的な再構成、再検討が必要であり、教科書の内容配列等を思い切って組み変える必要がある。又、地理のあらゆる分野にわたって同じような形式での課題解決学習の適用は困難であり、特に高校人文地理においては、部門別の系統地理学の体系が教科内容にも導入されているから、その再編成、指導案作成上の問題はかなり多く残されているといわねばならない。

IV 社会科社会の場合

中 尾 正 三

1. はじめに

「課題解決学習」について総論で述べられたことは、社会科社会の学習についても適用できるし、地理や歴史の場合よりも重要な意味をもつと思われる。

政治・経済・社会の分野については、地理でとりあげた農村問題、歴史でとりあげた織豊政権での取扱いが、ある程度そのまま適用できるのではないか、と思われる。

しかし、高校における社会科社会の倫理的分野については、課題解決学習の方式を適用することが原理的には最も必要かつ重要であると思われるのに、現実にはまだそれ以前の段階でとまどわざるを得ないのである。地理や歴史の場合、すでに系統学習についても問題解決学習についても長い実践が積み重ねられているのに、倫理は、相当の波乱の後最近始められたばかりで、目下試行錯誤の域を出ていないように思われる。私にとっても今までの倫理の学習指導は不満足なものであった。38年度から改訂独立する倫理に対する態度を整理しておくためもあり、今年には倫理に焦点をしばって、課題解決学習の適用は来年度考えることにし

て、まずその前段階を整えることにした。

以下は、本年4月から今まで、高校2年生2クラスに対して行ってきた倫理の学習指導のこゝろもと、その成果についての実践報告である。種々の都合もあって、政治・経済の分野は他教師がうけもち、週一時間ずつ併行して行なった。

まず、①総論であげられた「社会科学習上の困難点」についてのアンケートと調査、②昨年度の倫理学習についての生徒の感想、③東京教育大附属高校の斉藤先生の今までの実践報告、④新しい高2の生徒の種々な調査（生徒の意識・知識・読書経験・人生観など）、⑤現行各社の社会科社会教科書の比較分析、をもとにしておおよそ次のような視点に立って実践をすゝめたいと考えた。

2. 基本的なねらい

(1) 生徒の実態

④ 人生観調査（次表1）にみられるように、生徒は、戦後の諸調査に共通にみられるような、やゝ消極的に自分の幸福を楽しもうとする傾向が多くみられる。

人生観調査

- A 人の暮し方について、次にあげるものの中で、どれが自分の気持に近いものですか。自分の気持が一番近いものを一つ選んで○印をつけなさい。
- () いっしょうけんめい働き金持になること
 - () まじめに勉強して名をあげること
 - () 金や名声を考えず自分の趣味にあった暮し方をする
 - () その日その日をのんきにくよくよしない暮すこと
 - () 自分一身のことを考えないで社会のためすべてをささげて暮すこと
 - () 世の中の正しくないことをおしのけてどこまでも清く正しく暮すこと

	中学用として	高校用として
7 女の一生	ナシ	
8 人間の条件	ナシ	
8 風と共に去りぬ	ナシ	
8 友情	ナシ	
9 高校生	ナシ	
9 ビルマの壟断	ナシ	
9 ジェーンエア		8
9 レ・ミゼラブル		6
9 愛の学校	ナシ	
9 戦争と平和	ナシ	
10 人間失格	ナシ	
10 狭い門		5
10 チボ一家の人々		3
10 復活		5
10 アンナカレーニナ	ナシ	
10 静かなるドン	ナシ	
10 心		1
10 魅せられたる魂		8

本校 36.4調査 (%) 参考 東京高校

	本校 (%)				参考 東京高校 (%)			
	中2男	中2女	高2男	高2女	昭5 壮丁	昭24	34男	女
1.	13.8	2.4	17.1	6.9	18.6	7.1	5.7	3.8
2.	1.9	2.4	3.8	16.2	8.8	6.9	3.2	3.2
3.	0.9	59.4	28.4	41.9	12.2	52.7	42.0	50.4
4.	7.8	7.2	39.5	11.2	3.5	17.9	18.4	14.6
5.	7.8	11.9	0	6.9	24.2	4.2	7.6	4.7
6.	7.8	15.8	11.2	11.2	32.6	8.5	23.0	23.3

又、読書傾向をみると、下表2のように、教師が良書として推薦するものが必ずしも生徒の愛読書の高位を占めていない。教師の世代と生徒の世代のズレは当然といえるが、案外認識されていないように思われる。

教師の良書推薦順位と生徒の読書傾向との比較

(35.6 全高校生を対象として)

生徒の読書量	教師のすいせん数	順位
順位	書名	中学用として / 高校用として
1	車輪の下	8
2	次郎物語	2
3	アンネの日記	ナシ
4	破戒	6
4	罪と罰	5
4	ジャン クリストフ	2
4	大地	ナシ
5	出家とその弟子	4
6	路傍の石	1
6	坊ちゃん	1
7	真実一路	3

⑤ 学習上の困難点(総論調査結果18—19頁参照)として教師が第一にあげているものは、知的合理的理解をさせることである。それに反して生徒は感性的ではあるが素直な態度で、対立矛盾する見解やその歴史の変遷の前でとまどい、又単なる知的理解よりもまず自分自身との日常生活との結びつきを求めているものが多い。

⑥ 予備テストの結果では、生徒たちは思想家や思想について、ヨーロッパのことを最もよく知り、インド・中国・日本の順に知らず、又、そこから何か学びとれるであろうという期待も同じ順に少ない。

⑦ 生徒が困難を感じるのには、⑥でのべた思想の多様・対立・変化を一つの統一あるものとしてとらえられないことの他に、抽象概念・哲学的用語が理解できないということである。

(ロ) 教科書について

⑧ (イ)の③でのべたこととも関係しようが、東洋思想・日本思想の取扱いは、量的にも少なく、質的にも一面的で、数千年の歴史の中での発展や変化について考慮が払われていない。我々の日常生活を今でも支配している伝統を形成した思想の不十分(ある意味では不正確とすらいえる)な取扱いは、伝統を正しい意味で継承する上で、支障をきたさないであろうか?

⑨ 教科書に書いてあることは、「まことに当然なこと」と思われるが、問題はむしろ、そのあたりまえのところまでどのようにして到達するのか、というこ

とである。生徒の教科書に対する不満は（例えば下にみられるように）、その抽象性、あまりの当然性、理想化された断言にむけられている。

生徒の教科書と文集・プリント（後述）についての感想より、

- 教科書にあげてあることは、精神面では青年期の正義感とか、純真な心とかについて悩み苦しんでいる人々を対象としているので、私など考え及ばない考えがあったが、私のまわりの人たちはもっと現実的であり、私と同じような悩みをもった人が多いことに安心した。
- 教科書を読んだ時は、気持のうわべだけをつかんでいるように思われた。しかし、プリントの方を読んだ時は、人間の青年期の気持をありのままに書いているようだと感じた。又青年期にはみなが同じようなことを考えているのだな、と思いかえした。
- 教科書に書いてあることは理想的なことばかりで、もっともどと思う。しかし、私たち青年期の問題はもっともっと深いものです。本当にこの問題が分ってもらえたら、どんなにうれしいでしょう。
- 教科書は教訓じみでいて、読んでもピンとこないが、プリントは部分的ではあるが、身近かなことからあるため、分りやすい。
- 教科書は修養の本のようでおもしろくない。一見高い見地からながめているようで、「ああしろ」「こうしろ」では面白くない。

㉔ 倫理思想の取扱いは、歴史的背景を欠き、かつ政治・経済・社会とのつながりがなく、又、生き生きとした人間的な感動も乏しい。

(ハ) 具体的な方法

(イ)で述べたような実態の中で、たゞ教科書を系統的に（頁を追って）やってゆくだけでは、生徒は教科書の冷静な説明的叙述にとりつく島もなく、彼らの心情的な要求に答えてくれぬ無縁感「何の為に倫理を学習するのだらう？」と疑問をうみ、或いは単に聞き流し（記憶はしても）忘れさせてゆくだけに終らせるであろう。抽象的・記憶強制的・おしつけのお説教でなく、できるだけ興味深く、理解しやすい、生徒の主体的な倫理感覚を育ててゆけるような学習の指導のため、およそ次のような方針をたててみた。

㉕ なるだけ、生徒の関心・日常生活から出発し、たえずその実態を把握し、かつ、そこでの問題を教材としてとりあげてゆくこと。そのため種々な調査を行ない、その調査結果をプリントして教材に使い、それを深めてゆこうとした。

更に人生論、青春論的なものを資料集としてまとめて、みんなで読み、話し合った。又、できるだけ、レポート・学習ノート・作文を書かせ、討議を行なって身近なものからまづ彼らの関心をかきたて、彼らのもっている未分化的・感性的な漠然としたものを、理性的認識にまで高め、抽象化させようとした。そして彼らの感想や議論を文集としてまとめてみた。

㉖ 他との関連一、国語科や図書室と連絡をとって読書指導に留意し、夏休みに宿題として「古典」の読書を課し、よいと思われるものは図書室にはり出したりした。又保健での精神衛生の部分や国語科での人生論的思想内容はたえずそれらと関係づけるようにした。更にホームルームとの関係や、学校全体の生活指導の中での社会科倫理の位置づけをはっきりさせて、相互に強化してゆけるよう努めた。又、世界史、日本史との関連を強調し、生徒にたえず歴史の教科書や年表をかたわらにおいておくよう注意した。

㉗ 思想史のとり扱いにおいては、前述の理由から、教科書よりももう少しわしいや具体的ななかみをもつ資料集をプリントしてみた。とくに西欧の近代現代の文芸思想をとり入れ、東洋思想を多くかつ歴史の変遷を含めて、作ってみた。

㉘ 二つの学級を、生徒と話し合いその希望によって、一方は講義学習他方はグループ学習として試みてみた。

㉙ できるだけ教科書をそのまま教えるのではなく、「生徒が教科書を読んでどのように感ずるか、からまづ出発した。そのありのままの感想と、分かったところ・分らなかったところをはっきりさせることからみんなその先を考えてゆこうとした。

3. その結果

僅か8カ月たらずの実践であるから、明確なことはいえないが、たしかに昨年までの学習よりもはるかに生き生きした学習を展開できたし、かつ生徒も熱心に参加したように思われる。今までの実践の中から私が学びとったところのいくつかをのべて、批判していただきたいと思う。

㉚ 「身近かなもの」と「共感—解放」

たくさんの資料をプリントしてみたがその中でもっともよこばれたものは、自分たちの手記・青春論・人生論・或いは短かいアフォリズム風のことばだった。とくに生徒の原稿だけで構成した文集は（その中には教科書への批判や感想や教師論もあった）とてもよこばれ、後には自分たちの手でクラス文集やグループ文集を発行するところまで発展した。それは、下の生

徒の文にもみられるように彼らが「自分だけがそうではないか」と恐れ不安であった動揺・劣等感・孤独感・懐疑が、「他の人も同じようだ」と知って、安心と共感・そこから生れる連帯感をうみ、更に何かを考えてゆこうという気持を育てていったのだらうと思われる。

- プリントを読んで私は安心した。以前私は自分だけがこのようであるのか、なんてませているのだらうと悩んでいたけれども、あのプリントを読んでみたら、みんなが私と同じようなことを考えているではないか。だから、自分もみんなと同じように成長してきたのだなあと安心した。それに又、みんなと同じようなことを考えているのかと思うと、少しくすぐったいような気もした。
- みんなどんな考えをもっているのだらうと心配していたが、このプリントを読んで劣等感というようなものがとりのぞかれたような気がする。
- 自分ひとりが、特別な意見や性質をもっているのではないという気がして安心した。

⑥ 思想史のとり扱い方

① 学説史でなく一

思想を学説史としてのみ一例えば、ギリシャ以前には倫理思想はなかったような錯覚をおこしかねない取扱いは、生徒に倫理無用論をうみだしかねないし、又、単なる抽象的論理の羅列は、理解困難からくる倫理思想への劣等感をもうむこともある。倫理思想は、日常生活の中から生れ、再び日常生活にかえってゆくものであり、そのようなとりあげ方が必要であると思う。

② ギリシャ思想のとり扱い

ここをくわしく扱うことは、いろんな意味で、その後の学習展開にとって重要である。一つには近代ヒューマニズムにつながるものとして、もう一つにはヘレニズムのゆきづまりを通して宗教的なものの成立の必然性を理解させる点で一。これをはっきりさせることは現代思想の理解のための重要な手がかりとなる。とくにヘレニズムのとり扱いはきわめて重要で、是非とりあげたいものである。

③ 現代思想のとり扱い

ここでは、生徒のよく親しんでいる西欧の文芸作品や思想家をとりあげてゆくことが効果的だと思う。又現代思想の理解の前提として、近代思想、近代社会の矛盾をはっきりさせることが重要で、改訂要領の(3.現代社会と文化・民主主義、現代社会の特質)と関連づけてやった方がいいように思われる。

④ 宗教的なもののとり扱い

近代的なものゆきづまりと関連して、生徒はき

わめて強い「宗教的なもの」への関心をもっている。いわゆる既成宗教への信仰は殆んどもっていないが、「宗教的なもの」の要求・必要感を、最近の原水爆実験をめぐる状況からくる不安、人間への信頼の動揺からくるのであろうか、強くもっている。(83%)これをどのように扱ったらよいか、重要な問題であると思う。この問題は実存主義や社会主義のとりあげ方ともつながってゆくと思う。

⑤ 小市民・日常的態度のとり扱い

前にものべたように生徒に強くみられる小市民的中間層の態度は、所得倍増、レジャーブーム的な大衆社会現象の中でますます強化されているし、受験勉強という一種の踏み絵にも似た切実な経験もそれを助長しているようである。たとえば、ギリシア・ヘレニズム思想の中でもっとも彼らが共感を寄せるものは、エピクロス「静かな幸福」の考えである。こういう個人主義的快楽主義は、積極的な社会連帯への参加や愛国心と、どのように結びついてゆくものであろうか。私にはまだ何もいえない。むしろいろいろ教えていただきたい最大の問題である。

⑥ 講義学習とグループ学習との相違

前項の問題を考える一つの手がかり(少しではあるが)となるものは、両クラスのエピクロスへの反応の相違ではないか、とも考えられる。グループ学習の組ではエピクロスに共感する者が20名いるのに対し、講義学習での組では1名であり、多くは分らないとしている。グループ学習では、生徒の発表を中心としているため、他の例えばプラトンやストアの思想を知的に理解する前に、感性的にエピクロスを受けとっている場合が多いのではないか。(しかし、グループ学習のすべてがこういう結果になると断定することは危険であり、考慮を払うなら、その危険性を除いてゆくことは可能である)。他方講義学習の場合、できるだけまづ知的に(しかし、彼らに理解できるような表現で)公平に扱おうとし、エピクロスについてもその歴史的意味や長短を客観的に理解させようとする。そのため、感性的にはひかれても無条件に受入れるということにならないのではないか、と思われる。

⑦ 倫理学習の限界と効果

① 限界の確認

しかし、知的にある思想の限界を知ることが、そのままその人間の態度を変えることにはならない。もっと強力な情緒的全人格の体験を経なければならぬであろう。その点で、倫理思想の学習を通してどこまで道徳教育が可能なのか一むしろ、その限界

をほぼ見定めておくことが必要なのではあるまいか。そこから、かえってあせらずおしつけにならない真の倫理の学習が健やかに育ってゆくのではないかと思われる。

② 他との関連 ― 全体的位置づけ ―

そして一方では、もっと日常生活的なホーム・ルームや学校全体の道徳性指導計画と結びつきながら倫理学習の役割を果たして行くことが必要である。例えば、個人と全体の関係を考える時、学校のもっている全体の雰囲気の中での個人の位置がいか悪いか、ということは倫理学習の上にも大きな影響を与える。

③ 倫理学習の効果

しかしある限界はあっても、その中で倫理の学習はやはり効果を期待していいと思われる。学習のあとをふりかえって、先日行った意見の調査で「ある一つの方向を得た」「考える手がかりを与えられた」としたものが80%近くあった。混乱し未分化の漠然とした態度を、明確に意識化し、その中である程度の修正をも与える、そういうところにひとつの役割を見出していいのではないだろうか。

④ 混乱させることの重要性

倫理思想史の学習において、よく問題となり、生徒も訴えるのは、「思想の羅列・デパートにすぎない」「対立しあう見解によって混乱させられる」「相対性の中で普遍性が見失われる」というようなことである。しかし、そういうものにぶつかり混乱することによって、今までの自分の無自覚な立場が崩され日常的常識が否定されるところから、倫理思想の指導は始められるのではあるまいか。「ひとつの見解には必ず学ぶべきものがある」(カント)「古人の跡を求めず、古人の求めたところのものを求めよ」(芭蕉)―そのような態度が必要なのではないか。生徒はともすれば、思想理解の困難性から、自信を喪失したり、逆に思想の無用論をいいたすことが多い。しかし、混乱させられた自分の思想をたてなおし整理しようとする努力と古来の思想史の中から何かを学びとることは重なりあってゆくはずだし、むしろそこから、新しい現代のモラルを彼ら自身がつくりだしてくことを期待できるのではなからうか。

④ 方法やカリキュラムの問題

① 効果ある学習をすすめるために―

その為には、生徒たちが自分の素直な感想や疑問を恥かしがらずにみんなの前に出し、話し合っただけの雰囲気が必要である。そして生徒が分らないと

き、分らないのがむしろ当然なのではないかと疑ってみる態度が教師にも必要とされはしないか。又倫理学習については(少なくとも考え方については)評価はしない、という態度をはっきりさせておくべきだろう。又調査の結果や手記・課題などは再び彼らのもとにかえしてゆく―みんなのものとしてゆく―などの配慮が必要なのではないか。

② 課題の出し方

単なる感想や調査より、もっとよく生徒の内面的な世界を知る手がかりとなるものは、ある場面ある考えを設定してそれについて自由に考えさせる―つまりプロジェクト風の投影の方法であると思われる。又、そこに投影されている彼らの無意識の考え方を意識化させてゆく過程で、彼らは自分の考えを明確化し分節化し抽象的思考をそだててゆくことができるように思う。

③ カリキュラム、学年指定、長期継続などの問題

文部省中等教育資料113号で斉藤氏が指摘しておられる「①青年期、人生論などから入門してゆく、②できるだけ長期継続で(すなわち週1時間で)やってみる」とはきわめて効果的であると思う。私は、もしできたら2年だけの学年指定を1年1時間・2年1時間(或いは2時間)として、1年で青年期の心理や人生論を十分に扱ふことは、高1という発達心理の特性からも、高2での倫理思想の入門としても、非常にいいのではないかと、思っている。

カリキュラムの組みかえも、先にのべたように、現代思想のところは(3.現代社会と文化)と関連させ、或いはその順序をくみかえた方がいいのではないかと、思っている。又、インド・中国や日本の伝統的思想のとり扱ひももう少し考慮する余地があるのではないかと思う。

③ 教師の負担過重と、時間と内容の問題

「限られた時間の中で、どれだけのものを、どのように、どの程度やったらいいか、」ということとは、およそ現実的な効果を期待する限り、さけることのできない問題である。どのような理想的なものでも実現されない限り絵に描いた餅でしかない。教師の労力と時間の限界の中では、たくさんの調査や資料プリントをやっていくことがいと分っていても、仲々できない。それを打開するために私が今考えていることは次のようなことである。①内容を思いきってしばって、各時代の基本的なものをとりあげる。②最少限必要な、効果的な資料だけをプリントする。③プリントはプリント屋に出すか、生徒にも手伝ってもらふ。(生徒が理解と熱意をもち始めた

らスムーズにゆくものである) ④プリントによる共有の代りに、バズ法討議をつかう。全体討議ではひとりひとりの意見は出されにくい。バズ法だと、みんなが発言し、抵抗なしに一般化されてゆく。⑤しかし、何より欲しいのは、よい教科書と、安くて使いやすい資料等である。

4・反省

以上、ささやかな実践の中で考えたことをのべてきた。中には随分乱暴な発言や検討されるべき断定も多いと思う。とりわけ、最初にのべたように、「現実的

なものから出発しながら、実感を大事にしつつも、なお、知識の客観的系統性を重んじようとする」課題解決学習についての考察は、殆んどなされていない。それに関して、とりわけ、①抽象的概念・固有名辞をどのように扱うか。②思想を、政治・経済的な客観的現実の中でどのようにとらえるか。(現在の倫理を考える場合とくに重要であると思う。) ③思想史の系譜的取扱いをどのように整理するか——などの問題は、今後残された重大な課題であり来年度はそれを特に追求していきたいと思う。